

INFORMATION



《NEWS》

■第17回遺跡発表会を開催

平成 25 年 9 月 14 日(土)に佐倉市民音楽ホールで開催した遺跡発表会は、残暑の中、200 名を超える多くの来場者にお越しいただきました。今回は国立歴史民俗博物館教授の荒川章二先生に「佐倉の軍隊―平時と戦時―」という題名で豊富な資料を用いた講演を頂戴し、センターの調査事例として、佐倉城跡(歴博第 10 次)、間野台・古屋敷遺跡 C 地区(第 9 次)、尾上木見津遺跡・駒詰遺跡の発表を行いました。



■国史跡岩屋古墳(第3次)現地説明会を開催

平成 25 年 10 月 19 日(土)に、当センターで調査を実施した国史跡岩屋古墳の現地説明会を開催いたしました。岩屋古墳の調査は今年度で 3 回目を数え、西石室床面や前庭部の状況、古墳の南側にある舌状張出地形の構造等が明らかとなりました。当日は曇り空の中、多くの方が訪れて熱心に見学され、岩屋古墳の注目度の高さが窺えました。



※遺跡発表会・現地説明会の当日資料は、当センターホームページまたはスマートフォンサイトよりダウンロードいただけます。

《ご案内》

■平成25年度企画展 公益財団法人印旛郡市文化財センター設立30年記念「発掘のチカラ～変わりゆく街・歴史、そして未来～」開催中

当センター考古資料展示室にて、平成 26 年 6 月 27 日(金)まで企画展を開催しております。今回の企画展では、センター設立 30 年の節目として、これまで行なってきた遺跡の発掘調査を通して、街が変化の様子、学術的成果によって塗り替えられた新たな歴史、そしてセンターの活動が地域に与えた影響についてみていきます。



《平成25年度 調査を行った主な遺跡》

〈成 田 市〉 名木不光寺遺跡(古墳時代、中世・近世)
村田城跡(中世)
寺台城跡(中世)
大竹遺跡群Ⅲ(縄文時代、古墳時代)
北須賀遺跡群(縄文時代、古墳時代～近世)
下福田遺跡群Ⅰ(中世)
名木毛成台遺跡(古墳時代)

〈佐 倉 市〉 江原台遺跡(縄文時代、奈良・平安時代)
曲輪ノ内遺跡(近世)
天辺内山Ⅰ号墳(古墳時代)

〈四 街 道 市〉 相ノ谷遺跡(平安時代)
東作遺跡(第 5 次)(中世・近世)
飯塚台遺跡(第 2 地点)(縄文時代)

〈栄 町〉 岩屋古墳(第3次)(古墳時代)

《平成25年度 報告書を刊行した遺跡》

〈成 田 市〉 北須賀遺跡群(縄文時代、古墳時代～近世)
郷部南台遺跡(古墳時代～奈良・平安時代)
松崎名代遺跡(縄文時代、古墳時代～中世)
大菅向台遺跡・名古屋小帝西遺跡(古墳時代、奈良・平安時代、中世・近世)

〈四 街 道 市〉 前原 No.2 遺跡・木戸場遺跡(旧石器時代、縄文時代、奈良・平安時代、中世・近世)
東作遺跡(第 5 次)(中世・近世)
相ノ谷遺跡(平安時代)
飯塚台遺跡(第 2 地点)(縄文時代)

〈印 西 市〉 前原西遺跡(縄文時代、古墳時代)

〈酒々井町〉 墨木戸遺跡(第 4 次)(近世)

〈富 里 市〉 大作遺跡・中ノ莖遺跡・郷辺田遺跡・中ノ台遺跡・滝台遺跡(縄文時代、奈良・平安時代、近世)

〈酒々井町・富里市〉 尾上木見津遺跡・駒詰遺跡(旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代、近世)

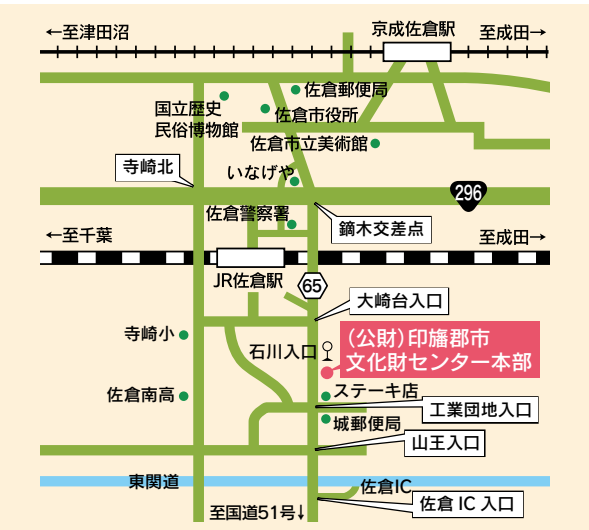
※発掘現場、室内作業は見学できます。ご期待に添えない場合もありますので、かならず、事前にご連絡ください。

《おしらせ》

スマートフォン版サイトを公開しました

広く普及しつつあるスマートフォンの利用者に向けて、ホームページにて公開している内容の一部をスマートフォンでの表示に最適化したスマートフォン版サイトを公開しました。下記 URL もしくは QR コードより閲覧できます。

<http://www.inba.or.jp/sp>



千葉県佐倉市春路1-1-4 ☎043(484)0126(℡) 043(485)9871 平成26年3月24日
http://www.inba.or.jp (ホームページ) http://www.inba.or.jp/l/

発行・編集 フィールドブックvol.36

公益財団法人 印旛郡市文化財センター

〒285-0814



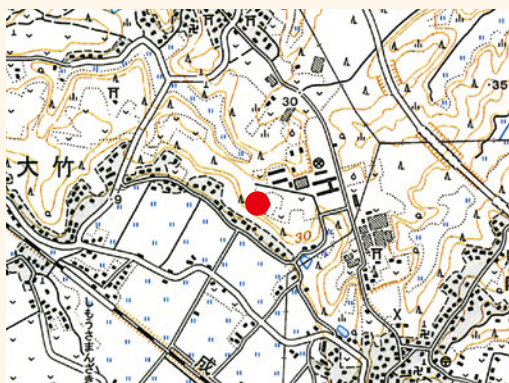
公益財団法人 印旛郡市文化財センター



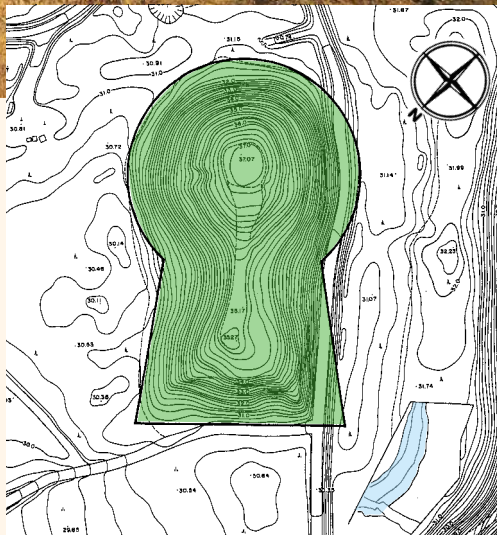
おお たけ 成田市 大竹遺跡群Ⅲ(その5)



周溝内で見つかった埴輪の出土状況



遺跡の位置 (1 : 25,000)



上福田4号墳と見つかった周溝(S=1/1,000)(註1)

大竹遺跡群Ⅲは成田市の西側、印旛沼に近い標高約30mの台地上にある遺跡です。同じ台地上には22基(前方後円墳3基、円墳6基、方墳13基)の古墳が確認されている上福田古墳群があります。調査は、低地部分との比高差が約20mある急峻な台地の縁辺部を中心に平成21年から行っており、過去の調査では縄文時代早期の炉跡や古墳時代前期の住居跡などが見つかっています。

今回、平成25年12月から平成26年1月にかけて、墳丘部分の全長が45m以上の前方後円墳である上福田4号墳の北西側で調査を行い、周溝と考えられる溝が見つかりました。溝は前方部の形状に沿うように見つかりましたが、墳丘から10mほど離れており、2重に廻る周溝の外側のもと想定しています。規模は上端の幅約3m、深さ50cm程になります。

周溝の覆土中から、埴輪片が多く出土しました。ほとんどは細かく壊れていますが、櫛描の模様や突帯の部分がみられることから、すべて円筒埴輪と考えられます。また、胎土に雲母を多く含んでいるのも特徴です。

出土状況から、墳丘と周溝の間に立ち並んでいたものが周溝に壊れ落ちたものと見られ、今後の整理作業によって埴輪が立っていた当時の状況を復元していきたいと思います。

註1 図は、千葉県教育委員会1998「千葉県重要古墳群測量調査報告書 一 成田市上福田古墳群・成田市北須賀勝福寺古墳群」p10.第5図を加筆して使用しています。

成田市 名木不光寺遺跡

成田市名木不光寺遺跡は、昭和62年に(財)千葉県文化財センターによる3,500㎡の調査によって初めて地下の様子がとらえられ、平成4～5年には(財)香取郡市文化財センターによって14,850㎡にわたる発掘調査が実施されました。その結果、縄文時代の陥穴跡、古墳時代から奈良・平安時代に至る集落跡、墓域を中心とする中世の人々の生活痕跡が見つっています。

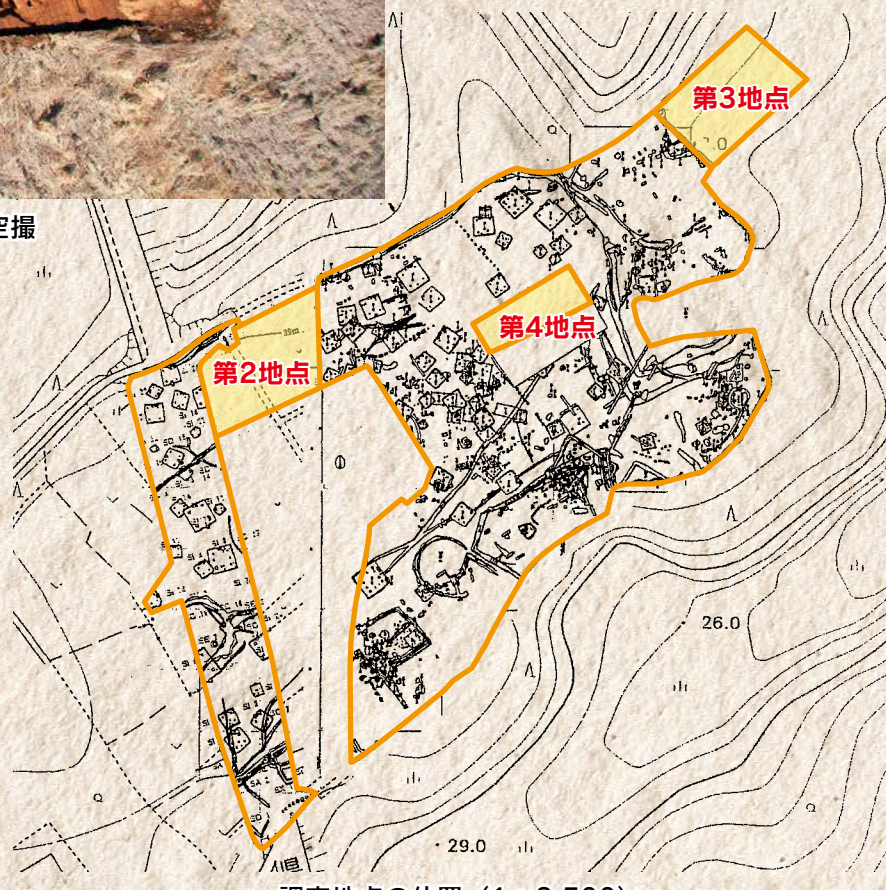
今回、当センターによって平成24年から同26年にかけて、新たに名木不光寺遺跡の3カ所に発掘調査の手が入りました。台地の西側基部にあたる名木不光寺遺跡第2地点は1,240㎡の調査が行われました。名木不光寺遺跡第3地点は台地の東部に位置し、2,600㎡を本調査しました。名木不光寺遺跡第4地点は、第2・3地点の中間にあり発掘調査を実施した面積は515㎡です。これらの調査では、これまで調査された古墳時代の集落跡に連なる建物跡が発見されるとともに、中世の屋敷跡が発見されています。



名木不光寺遺跡第2地点空撮



遺跡の位置 (1:25,000)



調査地点の位置 (1:2,500)

古墳時代の集落跡は、すべての地点で関連する遺構が調査されています。古墳時代の

竪穴建物跡は、第2地点で7軒、第3地点で2軒、第4地点では5軒、合わせて14軒が検出されました。

中世の遺構は、第3地点で発見された屋敷跡が注目されます。台地先端からやや離れた平坦部に位置し、高さ1mの土塁と堀が折れをもって囲郭しています。北西から北東にかけて、一部堀と土塁が二重になっている部分もあります。土塁内部には、台地を削平して低くなった部分が設けられ、建物跡や粘土貼土坑、地下式坑等といった遺構が見つっています。

この屋敷跡から出土した遺物はあまり多くありませんが、東辺の内側の堀からは平安時代以降に作られた八稜鏡が出土しました。大きさ10.5cm、重さ136.1gを呈する中国製鏡の流れをくむものです。現在、保存処理を施すとともに、その詳細を調べているところです。



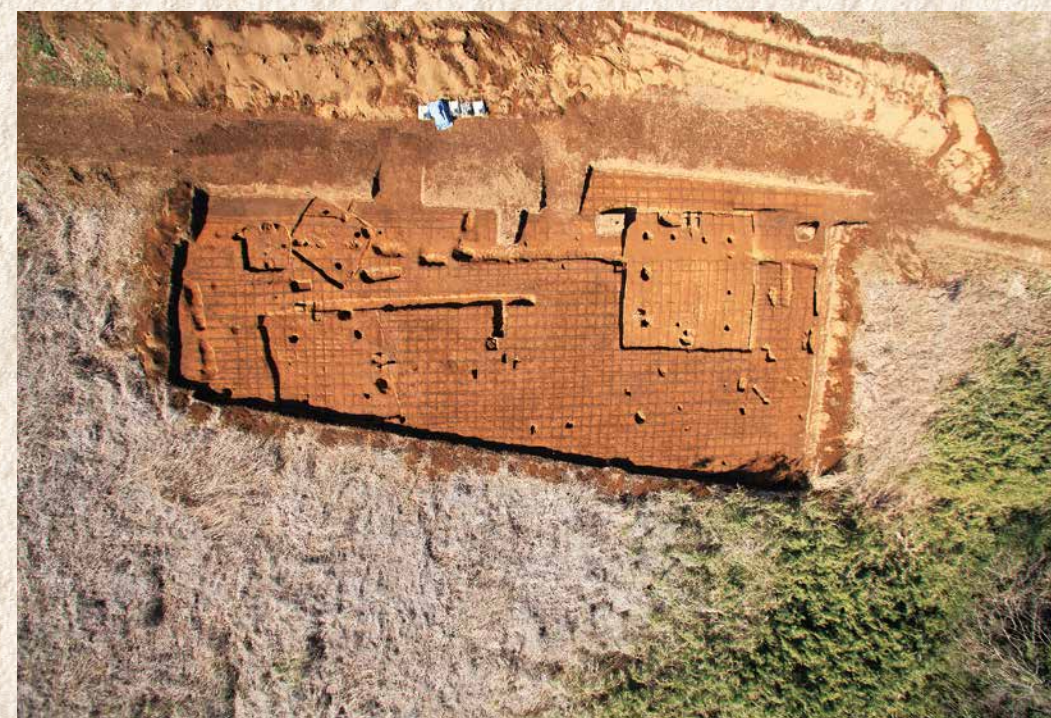
名木不光寺遺跡第3地点空撮



八稜鏡出土状況



出土した八稜鏡



名木不光寺遺跡第4地点空撮

